



TEL 〇七六二一五二五五〇
FAX 〇七六二一六二五五〇
E-mail okshoten@poem.ocn.ne.jp

平成十七年五月二十日
〒九三三〇八〇四
高岡市問屋町四十
有限会社 沖商店発
2015.5.20

いつもお世話になりありがとうございます。

『人は何の為にこの世の中へ生まれて来たのでしょうか』『人の本来の目的は何なのでしょうか』。そんなことを皆様と一緒に考えたい。そして皆様の意見を頂きたい。そんな思いで本通信をお届けしている次第です。

どうか忌憚の無いご意見をお寄せくださいます様お願い申し上げます。

一 韓国・中国の日本への抗議についてーその二
前、百二十一号第三項の続編です。

「となりの貧乏雁の味」という諺がありますが、「自分自身には何の得にもならないのに、他人が落ちぶれたり苦境に立たされたりすると、自分が得したような気になり、それは最高に美味しい食べ物を食べた時の喜びにも匹敵する」という意味です。

韓国・中国の日本に対する感情はその正反対です。「となりの繁栄苦虫の味」とでも言いましょうか。

先の第二次世界大戦で敗れた日本が、今日こまで復興・発展しなければ、日本への抗議・批判はもっと小さいもの、もしくはないと思います。

日本が第二次世界大戦に突入するまでを顧みます。日本はアメリカの黒船により、それまでの長い鎖国から目覚めさせられ開国しましたが、その際、大変不平等な条約を結ばされました。無知もあつたと思いますが、背景には武力による圧力があつたことは否めないと思います。

明治政府は懸命に条約改善に努力するとともに、富国強兵策を実施、『追い着き、追い越せ』を掲げ、国民から高い税金を取り軍備に注ぎ込みました。

西欧の列強国によるアジア進出競争の中、武力を増した日本は、大犠牲を出しながらも日清戦争、日露戦争に奇跡とも言える勝利を得ました。多大な犠牲を出しての勝利ですから、それなりの見返りがなければなりません。

朝鮮半島を併呑し、満州に進出、そしてさらに中国へと侵攻して行きました。しかし、西欧の列強国は、そんな日本の中国侵攻を黙って見てはいるはずがありません。軍隊の引き揚げ、諸権利の放棄を要求しますが、反対に日本はそこで引き下がるわけにはいきません。

列強国は遂に経済封鎖という切り札を実施しました。資源

のない日本は経済封鎖されれば立ち行くはずがありません。ここで日本をリードしていた人々が、思慮深く冷静であつたら、世界の歴史は全然違つていました。実際、多くの識者が戦争反対を叫び、平和主義の天皇陛下の御前会議においても大いに議論が闘わされましたが、連戦連勝の軍部の勢いに抗し切れず戦争続行となりました。一般国民の中にも大勢の戦争反対者がいましたが、捕らえられ投獄されました。

しかし、戦争を続行するには資源が必要になります。日本は資源を求め、当時、列強国の植民地だった東南アジアへ目を向け、太平洋戦争へと突入して行つたのです。その結果、資源も持たず、手を広げ過ぎた日本は敗れました。今になつて（当時でも冷静に）考えれば、当然のことです。

その間、多くの日本国民は勿論、属国として併呑していた朝鮮人民や占領地としていた中国人民に多大な犠牲を強いました。そして、戦いが不利になればなるほどその犠牲は大きく、利するところは何もないのに、先導者の意地と狂気のために多くの命が徒に失われました。

以上が私の思う、日本が第二次世界大戦に突入し、敗戦するまでの「あらずじ」ですが、なにしてる浅い学習によるものから、不足な点・間違つた点もありましょう。その点は是非、補正ご教授願います。

これを、日本、韓国、中国の識者が集まり、自国のエゴを捨て、誇張・偽装・粉飾・改ざんをやめ、米英をはじめとする西欧各国の識者の意見も交え、冷静客観的な歴史の事実を確立したなら、今日の教科書問題や靖国神社参拝問題はなくなると思います。戦時中では事実不明な事柄が多くあると思います。それを無理やり自国の都合のよいように編纂するのではなくこの点については、日本側では云々中国側では云々、第三者の見解としては云々」と言うような表現でもよいのではないかと思います。

韓国、中国の方々には、いつまでも被害者意識に甘えることのないよう、特に中国では、一部の過激な不平分子や内地から出て来た貧困層の、鬱憤晴らしの行動に惑わされることのないよう、そして、日本の国粹主義者・右翼の方々には、そんなくだらない者に相手になつて、過激な行動はしないよう、冷静に相手の言うことを理解するよう、そして小泉総理大臣には、格好をだして意地になつて靖国神社を参拝して、徒に韓国、中国の人々を刺激しないよう（参拝したいなら何時でもできるでしょうし、一個人として参拝することには誰も文句は言えないと思います）お願いするものであります。

二 日本の領土問題

前項に関連してありますので日本の領土問題について私の考えを申し述べたいと思います。こんにちの日本の領土問題は、大きく三件あると思います。

- その一は、ロシアとの北方領土問題。
- その二は、韓国との竹島（韓国では独島）問題。

その三は、中国との尖閣諸島問題。

前項でも申し上げましたが、百年ほど前までは領土は、武力によって奪われるのが当たり前でした。戦いに勝つた国は負けた国の領土の一部（場合によっては全土）を自国の領土に分割譲渡させ、その上重い賠償金を払わせました。負けた方は、命と引き換えですから文句が言えません。

江戸時代には前記三件の領土については、問題視されていなかったと思います。明治時代以降、前項で申し上げた通り、日本は戦争に勝ち続けました。

ロシアとの北方領土問題については、日露戦争の勝利により、樺太（サハリン）の半分までを日本の領土とする条約が結ばれたほどですから、勿論、この時点では国後・択捉を含む北方四島は、当然、日本の領土との認識は両者とも持っていたと思います。

韓国との竹島問題、中国との尖閣諸島問題は、日本が朝鮮半島を併呑し、中国を占領してしまつたから論ずるまでもなく、これまた当然、日本の領土と認識されてきました。ところが、この度の大戦で日本が敗れ、二百海里的の経済水域が設定されるようになり、俄然、その存在価値が大きクピックアップされるようになったのです。

日本に言わせれば、歴史的に見て当然日本の領土だと主張しますし、相手国にすれば、先の大戦で日本が敗れたことでもあり、その弱みにつけこみ自国の領土だと主張しているわけです。

これは不可解なことでも何でもなく、当然なできごとだと思えます。我々の肉体にしても、歳をとつて体の抵抗力がなくなつてくると、それまで抑えられていたウイルス・ばい菌により病気が表に表れて発病しますが、相手の弱みにつけこんで来るのは、ウイルス・ばい菌だけではないのです。

こんなことを凡て加案して、私が日本国の代表者ならこうするという平和的解決方法を述べます。

解決方法その一、籤引き、じゃんけん決めて決める。解決方法その二、戦争をはじめとする人命のやりとりに関係ない競技方法で決着をつける。例えば、スポーツ競技、科学技術競争、文化競演などで勝れた国の領土にする。解決方法その三、当該箇所を共有のものとし、権利も管理義務も共同で公平に行う。

その一は冗談、その二はふざけですが、その三は合理・実現可能な方法だと思えます。

如何にもならない現状で、自国の主張を曲げず、お互いに進展のないことに拘つているより、前記の方法にでも頼つて解決し、さらに次ぎへの発展を図って行く方が両国にとつての得策であり、それこそ文明国・大人の解決方法と言えるのではないのでしょうか。

三 リキの死

私の会社で犬を一匹飼つていました。名前は「リキ」と言いました。

三年前に一人暮らしのおばあさんが、面倒を見きれなくなり、里親を捜していると言う話を聞いて貰いに行きました。

雄のゴールデンレトリバーで、当時六歳の成犬でした。私の顔を見ると喜んで駆け寄り、しきりに愛嬌を振りまいてじやれつてきました。元の飼い主もそれを見て安心したのかその場ですぐ貰つて来ました。

私の妻は犬が嫌いなので、会社において飼うことにしました。そんな癖になつていたので、散歩に行かなければ餌も食べないし糞もしません。

以来三年、雨の日も風の日も散歩に連れてゆきました。休日には犬の散歩だけのために会社へ行きました。私が出張などで留守にする時は、元の飼い主か近所の大好きな友人に頼みました。

私はなまくら（怠け者）なので自動車に乗つたまま運転し、犬にその後を付いて来させました。糞をしたときだけ降りていつて回収してました。

そんな私に「健康のため散歩をしよう」と、犬を飼う人がいるくらいなのに、あなた、せめて自転車散歩しなさいよ」と言う人もいましたし「犬の散歩は綱に繋いでしなさい」と注意もされました。それで軽四を買つて、後ろの荷台に犬を乗せ、庄川の河川敷まで行つて放し、五、六キロ走らせ散歩させていました。

大型連休前の四月二十八日も、いつも通り散歩させ、八時に鎖に繋ぎました。正午ごろ「社長、リキがゲボを吐いてぐつたりしている」と社員に聞き、あわてて見に行くと、ゲボを吐いてぐつたりしています。「リキ、リキ」と呼びますと一度頭をぶるぶると振り、またぐつたりしました。後で聞くとそれが最後の力だったとのこと。お昼休みにもかかわらず、獣医さんに待つて貰い、診て貰いに行きました。が着いたらもう死んでいました。

死因は毒物だろうとのことでした。振り返れば何でも拾い食いし、特にティッシュペーパーが大好きでまるで掃除屋のようでした。

それにしても、朝、元気に自動車の後を追いつけていたのに、昼過ぎには死んでしまふなんて、あまりにもあつてなく、悲しい思いもありませんでした。

私が信仰している浄土真宗の蓮如上人が書かれた御文の中に「白骨の章」と言うのがあり、その一部分「あしたに紅顔ありて夕べには白骨となる身なり」が思い起こされました。毎朝、仏壇に唱えている「般若心経」を唱え、合わせて、去年亡くなられました元の飼い主（癌だったとのこと）の元へ行ってくれることを祈りました。

そして生前「今度、この世に生まれて来る時は、人間に生まれ変わって欲しい」とよく言い聞かせていた通り、人間に生まれ変わって欲しいと願われてなりません。

有限会社 沖商店 代表取締役 沖昌弘

個人メール E-mail Okshoten@poem.ocn.ne.jp

（この通信の意見をはじめ個人的な連絡は1500文字以内）